

幼稚園教育実習の事後指導における個別面談による フィードバックの試み

増 田 吹 子

Individual Counseling Feedback Following Practice Training at Kindergarden

Fukiko Masuda

11年以上にわたり幼稚園教育実習指導を担当し、個別面談による実習事後指導の有用性を感じてきた。しかしながら、本学では年に120名程度の学生に対する実習指導を行うため、時間的な制約がある中で全員に対しての個別面談を行う難しさも感じている。そこで、本稿では幼稚園教育実習Ⅱを終え個別面談によるフィードバックを行ったことも学専攻2年生を対象にアンケート調査を行い、個別面談による実習のフィードバックの意義を検討した。アンケートの結果、ほぼ全員の学生が個別面談を通して学べたと考えており、特に自分の課題を明確にでき、実習記録の書き方を学べたと考えていることがわかった。また、個別面談の実施時期や時間には課題があることも明らかになった。

Key Words: 幼稚園教育実習・事後指導・個別面談・評価返し

(Received September 26, 2016)

はじめに

筆者は、専門学校・短期大学において11年以上にわたって保育者養成に携わり、幼稚園教育実習担当として幼稚園教諭免許の取得を希望する学生の指導を行ってきた。前任校である専門学校に就任した際に、保育実習担当の教員が実習の事後指導として全実習生に個別面談による事後指導を実施していたのを参考に、幼稚園教育実習においても個別面談による事後指導を行っていた。その中で、実習先の評価を伝えることにより学生が自分の努力を認められたと感じている姿を見ることができ、学生との対話の中で実習及びこれから保育者になるにあたっての課題を明らかにすることができることにより、個別面談による事後指導の意義を感じている。しかし、平成25年、現任校に入職して以来、指導する学生の数が前任校の倍を超えることとなった^(注1)。さらに、3年制の前任校に比べ2年制の現任校では、学生側にも時間的なゆとりがなく、全員に

* 鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻 (〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号)

対する個別面談を通じた指導を行う難しさに直面している。

そこで今回は、個別面談による実習の事後指導についてのアンケートを基に、個別面談による事後指導の意義を確認し、継続の必要性や改善の方策について検討する。

1. 幼稚園教育実習にかかわるカリキュラムと位置付け

(1) 幼稚園教育実習に関わるカリキュラム^(注2)

教育職員免許法第6条により、幼稚園教諭第二種免許状を取得するための教育実習の最低習得単位は5単位と定められている。そのうち1単位は「実習に係る事前及び事後の指導1単位を含むものとする」とされている。

この法律に則り、本学では実習に関わるカリキュラムを下記のように規定している。

授業科目	授業方法	単位数	履修時期
幼稚園教育実習指導	演習	1単位	1年後期~2年前期
幼稚園教育実習Ⅰ	実習	2単位	1年後期
幼稚園教育実習Ⅱ	実習	2単位	2年前期

尚、幼稚園教育実習（事前事後指導含む）の単位は、幼稚園教諭免許取得のための必須単位である。

(2) 幼稚園教育実習の位置付け

本学では、幼稚園教諭二種免許の他に保育士資格も取得できるようになっており、大半の学生が両免許・資格を取得する。このため、学生は2年間で計5回の実習に参加することになる。その中で、幼稚園教育実習は下記のように位置付けられている。^(注3)

幼稚園教育実習Ⅰ	1年生11月	・初めての实習である ・これからの学習についての課題をもつ契機となる
保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設）	1年生2月 1年生3月	
幼稚園教育実習Ⅱ	2年生5月	・これまでの学習の成果を発揮する ・課題への取り組みを確認し、新たな課題を見出す
保育実習Ⅱ・Ⅲ	2年生8月	

平成28度は、1年生69名が11月7日（月）～19日（金）の日程で幼稚園教育実習Ⅰに参加予定であり、2年生55名が5月30日（月）～6月10日（金）の日程で幼稚園教育実習Ⅱに参加した。

2. 実習指導のスケジュール

前述の通り、本学では1年次の11月に幼稚園教育実習Ⅰ、2年次の5月に幼稚園教育実習Ⅱに参加する。実習に向けての指導は幼稚園教育実習指導の授業を中心に行っているが、授業では足りない部分は学生の授業のない時間を利用するなどして下記のようなスケジュールで指導している。

- 1年次前期： <幼稚園教育実習Ⅰ事前指導>
幼稚園教育実習の目的・意義・概要
実習の内諾訪問について
オリエンテーションについて
- 1年次後期： 実習の意義の確認
実習に向けて必要な準備の確認（オリエンテーションの振り返り）
指導案の作成（活動の流れ・指導の意図）
実習記録の書き方（活動の流れ・教師の指導・環境の構成）
2年生による実習体験発表会への参加
読み聞かせの発表
実習課題の確認・実習への心構え
<幼稚園教育実習Ⅰ事後指導>
実習の反省と課題の確認
グループでの実習体験報告による子ども理解
実習園へのお礼状
実習担当教員による個別面談
<幼稚園教育実習Ⅱ事前指導>
ペープサート等の児童文化財の作成及び発表
- 2年次前期： 指導案の作成（子どもの姿・ねらいと活動の関連）
実習記録の書き方（教師の意図・配慮）
実習課題の確認
<幼稚園教育実習Ⅱ事後指導>
実習の反省と課題の確認
実習園へのお礼状
実習担当教員による個別面談
- 2年次後期： 1年生に向けての実習体験報告会（保育実習の内容も含む）

3. 個別面談による事後指導

(1) ねらい

授業では記述やグループワークによる実習の振り返りを行うが、それとは別に個別面談の形をとるのは、実習園の評価を伝えることが最も大きなねらいである。また、実習について学生の話聞き、それに対して教員が意見を述べることで、学生が自分で気づいていない課題に気づくことや、自己評価が園や教員の評価と大きく差がある学生の「ずれ」の解消につながることをねらいとしている。さらに、実習指導のための面談の意図とは外れるが、授業でしか接することがない学生と一対一で話をするすることで、個々の学生についての理解を深め、実習指導に限らず学習指導や生活指導全般に生かすことも意図している。

(2) 手順

①学生との時間調整

実習終了後、概ね1ヶ月以内に実習園から評価表と実習記録が郵送されてくる。評価表が届いた学生を掲示板で呼び出す。筆者の空き時間を示した表を用意しておき、学生は授業のない時間等の面談可能な時間を選択し名前に名前を書き入れるという形で面談のアポイントをとる。

②実施期間

今年度は平成28年6月27日から7月28日の間で、実習生55名全員に対して面談を行った。実習は6月10日で終了しているが、実習園からの評価表と実習記録の返却を待って行うため、この時期の開始になる。また、夏休みに保育実習を控えているため、保育実習前に振り返りを行うことで実習に生かせるよう、夏休み前に終える日程で行っている。

③場所・時間

学生が表に名前を記入した日時に、実習担当者の研究室において個別に面談を行う。実習生1人当たりの面談時間は20分から30分程度であるが、長い学生で40分にわたることもある。そのため、朝は授業前に1人、空き時間は1コマ(90分)3人、昼休みは1人、放課後は2人までとしている。昼休みは掃除があるため、面談時間は20分となる。

(3) 面談の流れ

①実習の感想を自由に話してもらう

多くの学生は教員と一対一での面談の経験がなく、指導する学生数が100名を超えることもあり、中には個別に話したことがない学生もいる。そのため、アイスブレイクの意味で、最初に「実習はどうだった」と切り出し、実習について自由に話してもらう。最初にこちらが聞くという機会を作り、共感の姿勢を示すことで話しやすい雰囲気を作るようにしている。実習は学生にとって非常に大きな体験であるので、子どもが可愛かったこと、楽しかったこと、大変だったことなど自分の思いは話しやすいようである。

②実習園からの評価をкаいつまんで説明する

この時に、実習園からの評価表は開示しない。これは、開示するという前提で記入してもらっていないため、学生にとってはショックな言葉が書かれていたり総合所見が非常に短く記されていたりすることがあり、園の先生の真意が学生に伝わらず、学生の実習園に対する不信感が芽生えるのを防ぐためである。

総合所見の中で褒めていただいていることや特に評価の高い項目については褒めていただいている内容や評価が高いということをそのまま伝える。総合所見の中でご指摘いただいている点については、言葉を選びながら伝え、そのご指摘についてどう考えるか尋ねる。他の項目より目立って評価の低い項目があればそのことも伝え、評価が低くなっている理由を尋ね考えるよう促す。

③実習記録・指導案を見ながら記入状況を確認する

学生の実習の間の姿は、訪問指導の教員からの報告や評価表等から推測するしかない。その中で、実習記録・指導案は実習生の取り組みの中で唯一実習担当者が実際に見ることができる

ものである。

記録や指導案を学生と一緒に見ながら、書いている点を伝え改善点を指摘する。実習記録では、1年生では時系列に沿って観察し記述できているか、2年生では教師の意図・配慮が書けているかという点にポイントを置いて指導している。しかし、中には教師の意図・配慮まで書けている1年生もいれば、観察の記述さえ不足している2年生もいる。このため、当然のことながら、各自の記録に沿って現時点できていることと今後より意識して書くべきことの確認を行う。

④実習の反省と今後の課題について話し合う

これは②・③と並行して行われることが多いが、必ず次の実習に向けて、もしくは保育者になるにあたっての自分の課題を尋ねている。学生の答えを聞きながら、自己課題とその課題を克服する具体的な方法を学生と一緒に考える。

⑤実習について不明な点を確認する

最後に、実習について他に不明な点や話しておきたいことはないか尋ねる。特にないと答える学生が大半であるが、中には「実習に関係ないことでもいいですか」と断りを入れた上で就職の話や人間関係の悩みを話す学生もいる。学生の話最後まで聞いた後、何か話し足りないことや疑問に思うことがあればいつでも来るように伝え、面談を終了する。

(4) これまでの傾向

先述の面談の流れ①～⑤は、筆者が個別面談による事後指導を行う中で自然に出来上がった。必ずしも実習がうまくいったという学生ばかりではなく、面談時には緊張している学生も多い。しかし、最初に実習の感想を自由に話してもらうことで打ち解けた雰囲気を作り、落ち着いて話しができていくと感ぜられる。実習園の評価を伝える際には、実習中にも同じことを言われたという学生が多く、フィードバックを行うことで実習中に受けた指導がより確かなものとなっているといえる。面談終了時の学生の表情や言動などから、面談の内容には概ね満足していると考えている。しかし、実習時の記憶をたどるために実習記録を見ながら話をするため、記録の書き方が話の中心となることが多く、子ども理解等実習に関する他の事項についての指導が手薄になっている可能性もある。また、実習終了時には、何かあればいつでも来るように伝えていたが、面談終了後に実習に関しての質問や相談に来る学生はいない。このことから、面談の時間を設定しなければ学生と実習の評価について話しをする機会はほとんどもてないと思われる。

4. 個別面談についてのアンケート調査

(1) 方法

対 象：本学こども学専攻2年生のうち幼稚園教育実習Ⅱに参加した55名

方 法：moodle上のアンケートへの回答（記名式）

回 答 率：100%

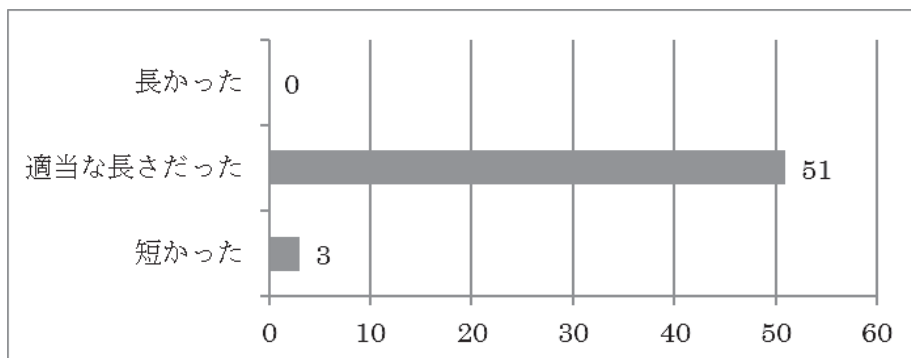
実施期間：平成28年7月27日から9月17日まで

質問項目：評価返しの時間について・評価返しを行うことで課題が明確になったか・評価返し

を行うことで理解が深まったこと・評価返しを行うことで学べたこと・その他評価返しについて思うこと（実習事後指導のための個別面談を実習指導の中では「評価返し」と呼んでいる）

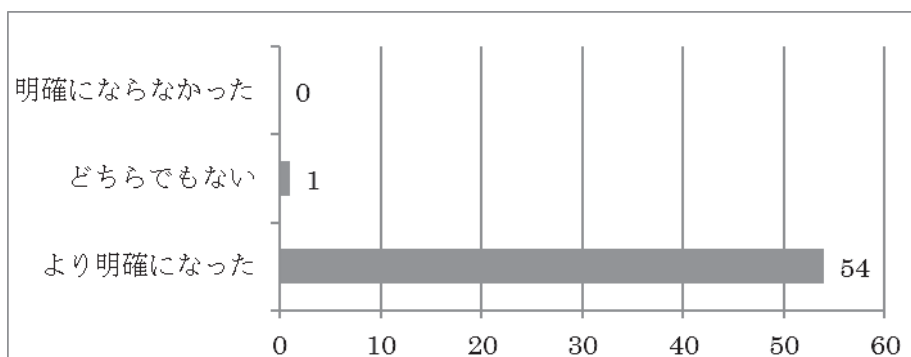
(2) 結果と考察

①評価返しの時間について（選択）



1人20分～30分、中には40分以上の面談を行った学生もいるので、長いと感じている学生が多いのではないかと予想していたが、学生にとって面談の時間は概ね適当な長さであったといえる。短かったと回答した学生のうち2名は授業の空き時間に面談を行ったが、次の学生の予約が入っていたため30分までしか話ができなかった学生である。残りの1名は、昼休みに面談を行ったため面談時間は20分であった。大半の学生にとっては十分な時間の設定になっているが、後の時間に予約が入っていなければ40分話した学生もおり、ゆっくり話したい学生にとっては短く感じられることもあるようである。

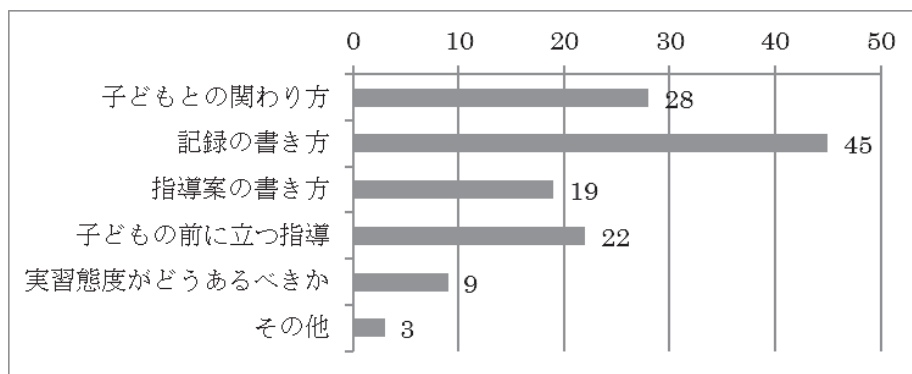
②評価返しを行うことで課題が明確になりましたか（選択）



1名を除いてより明確になったと回答している。どちらでもないと回答した1名は③の「評価返しを行うことで理解が深まったこと」において「記録の書き方をより具体的に学ぶことができ、新たな課題が見つかりました」と回答している。この1名は現在のところ保育業界への就

職を希望していない。記録の書き方が今後の自分の進路に直結するものではないため、どちらでもないという回答になったと考えられる。

③評価返しを行うことで理解が深まったこと（複数選択）



記録・指導案の書き方について理解が深まったと考える学生が多いことは、予想通りであった。面談の中で記録と指導案についての指導に費やす時間が長いため、それ以外の指導が不十分はないかと危惧していたが、子どもとの関わり方や子どもの前に立つ指導についても理解が深まったと考える学生も半数程度いた。

④評価返しを行うことで学べたと思うことがありますか（自由記述）

自由記述であったが、全員が回答した。下記に回答の内容を分類し整理する。

・反省点・課題・改善点の明確化（31件）

「振り返ることで実習での自分のできなかったことなどの反省ができ、これからそのためにどうすればいいのかななどを明確にして、やるべきことが見えた」「ゆっくり考えて振り返ることができ、実習では気づかなかったことに気づける」「自分で分からなかったことを評価返しを行うことで、しっかりと考えることができたと思います」など。

・記録の書き方（21件）

「記録の書き方を1つの項目を挙げて詳しく説明していただき、書きたい内容が書けていても書く順番を変えると内容や配慮について詳しく書けるということを学ぶことができました」「記録をしっかりと見つめなおし、自分の書き方がまだ足りていないことがよくわかりました。先生と見直すので、自分では気づくことができないことに気づくことができました」「記録の書き方で、あまり園の方でも指摘がなかった箇所を指摘していただき、もうすぐ社会人にもなるので参考になった」など。

・その他（6件）

「日々のねらいの立て方も学ぶことができました」「実習に行くまでの準備をもっともっと余裕を持って行うこと」など。

上記から、評価返しを行うことで反省点や改善点を明確にできた学生が多いことがわかる。また、記録の書き方についても自分では気づけないことに気づくという利点があることがわかった。

⑤その他評価返しについて思うことがあれば書いてください（自由記述）

「特にありません」等を除いた回答は17件であった。

○評価返しがあってよかったとする意見（4件）

「どのような努力や準備が必要なのか考える時間になるのでいいと思う」

「評価返しをすることで、次に活かすことができますと思います」

「評価返しは実習を振り返る唯一の機会なのでこれからもあってほしい」

「緊張するけど、評価返しをするのとしないとではまた違うなと思いました」

○評価返しの方法への指摘・要望

・評価返しの時期が遅い（6件）

「評価が返ってくる前に時間が空くので、思い出しにくいこともある」

「実習から時間が経っていて、よく覚えていないところがありました」など。

・その他（2件）

「実習での出来事をもっとお話しできれば良かったです」

「人によって時間が決まっているはずなのですが、伸びたりして次の人が待っていたり、次の授業のぎりぎりになったり、掃除時間ぎりぎりになったりすることがある」

○お礼等（5件）

「とても共感して話を聞いてくださるので、落ち着いて話をすることができました。ありがとうございました」

「自分に自信を持って最後の1実習も頑張ります」など。

④までの回答を見ても、多くの学生が評価返しを行うことで実習について何らかの学びを得ていることがわかるが、中には時期・方法についての指摘もあった。実習園から評価表が返送されてから始めるということと50名以上の学生に対する面談を行っているということから、実習後早い時期に面談ができない学生もいる。8月から前期末試験が行われるということもあり、実習に対しての意識も薄れ記憶もあいまいになっていると考えられる。このことについて、時期を変更することは難しいが、できるだけ早く面談のアポイントを取るよう促す等して対応したい。また、面談の時間が伸びてしまう学生がいる件については、途中で泣き出したり話が止まらなくなってしまうこと等から、後がつかえていても終われないことがあったことによる指摘である。現在の20分～30分という時間の設定を長くすることは難しいため、カウンセリング力を上げることで時間の短縮を図る必要があると考える。

おわりに

アンケートの結果から、ほぼ全員の学生が個別面談を通して自分の課題を明確にできたり記

録の書き方について学べたりしたことが明らかになった。また、面談の実施時期や時間などには課題があることもわかった。実施時期については、実習の評価表が返却されてから次の実習の開始までという制約があり大きく変えることは難しい。中には実習の記憶が薄れている学生がいることも考慮しながら、面談時の言葉のかけ方を考えていく必要がある。また、面談にかかる時間の問題については、個別面談に臨む教員がカウンセリングのスキルを上げることで、ある程度の時間内で必要な話ができるようにすることで解決できるかもしれない。

一方で、今回は回答数を確保するためにアンケートの未回答者に回答を促せるよう記名式でのアンケート調査を行ったため、学生の本音が明らかになっていない部分もあると考えられる。無記名でのアンケートを行ったり、面談時の学生の反応から学生が実習事後指導に何を求めているかを考えたりすることにより、より効果的なフィードバックのあり方を探る必要性もあるだろう。

このように課題は残っているが、アンケート結果からも多くの学生にとって学ぶ機会となっていることは明らかであり、個別面談による実習の事後指導は継続する価値があると考えられる。

注

- 1) 平成28年度は、本学生生活学科こども学専攻1年生69名が幼稚園教育実習Ⅰに参加予定であり、2年生55名が幼稚園教育実習Ⅱに参加した。
- 2) 本学生生活学科こども学専攻「幼稚園教育実習の手引き」より引用
- 3) 同上

